

森林やまがた

No.172

2017.11



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



第42回山形県児童木工工作コンクール表彰



目次

第27回山形県林業まつり	2
やまがた美しい森林づくり推進大会開催	3
山形県林工連携コンソーシアムの設立について	4
「みどりの循環」体験イベントを開催しました	5
素材生産システムクリニック事業の実施について	6
県民の森フィールドアスレチック・リニューアル	6
緑の少年団・村山地域交流研修会の開催	7
「やまがたの森づくり発表会」開催のお知らせ	7
みどりのページ	
郷土の名木・古木等保全事業の実施について	8
平成29年度の緑化功労者の表彰がおこなわれました	8
企業局だより	
山形県企業局の事業	10
山形県企業局の森づくり活動	11
山形県企業局コンサート～水の調べ～	11
フォレスト通信	
「コロラド研修記」アメリカ農林業視察研修から	12
森林組合長に聴く	13
森の人紹介	
四柳徹也さん・三沢英一さん	14
普及情報	
森林総合監理士等及び森林施業プランナー技術向上研修の実施について	15
伐出・植栽の一貫作業システム現地研修会の開催	15
第12回東日本チェーンソーアート競技大会開催	16
「おきたま森の感謝祭2017」を開催	17
森林境界明確化と森林整備(間伐)研修	18
バイオマス資源熱利用実証事業について	19
丸太価格・製材品価格の推移	20

(表紙写真は、平成29年10月14・15日に開催された「第27回山形県林業まつり」の開催状況)

第二十七回 山形県林業まつり



今年も大盛況でした!

県民の皆様には森林の働きや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、第二十七回「山形県林業まつり」が、十月十四・十五日の二日間、天童市の山形県総合運動公園第2南駐車場において開催されました。

今年も「第六十七回山形県農林水産祭」として「山形県林業まつり」緑と水と木の祭典」と「秋の食彩まつり」が同時に開催され、各ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売のほか、子どもから大人まで参加できる楽しいイベントが行われました。

今年も、肌寒い気温となりましたが、二日間とも天気は大きく崩れず、来場者数は三万六千人と大盛況となりました。

十四日正午から、「農林水産祭合同オープニングセレモニー」として若松副知事による開会宣言や主催者らによる丸太カットが行われました。



主催者らによる丸太カット

さらに、「NPOやまがたの木・住環境共生ネットワーク」による上棟式と祝い餅まきには多くの来場者が集まり、にぎわいをみせていました。今年も、会場をステージ近くに移動し、足場を低くしたことで、多くの方に上棟式の内容を見て理解してもらうことができました。

また、恒例の丸太切り競争、幼児

積み木競争や子ども青空木工教室において、たくさんの子どもたちが楽しそうに木と触れ合う光景が見られ、多くの方々に木の持つ温もりを感じてもらえることができました。



「上棟式 祝い餅まき」

木造建築のブースでは、県産木材を使用した迫力のある住宅構造躯体が多数展示され、来場者の皆様に直接見て触れていただくことで、木のある暮らしの良さを身近に感じていただきました。

高性能林業機械展示コーナーでは、山形県立農林大学校の学生によるハーベスタの実演が行われました。二日間学び、習得した技術が披露され、今後の就職先での活躍が期待される場所です。

その他にも、「やまがた森林ノミクス」などのパネル展示や、旬のきのこを使ったおいしい山形の食品販売、木工クラフトやきのこ植菌体験など、県産木材をはじめとする「森の恵み」を実感していただける機会になりました。



きのこの植菌体験

今年で二十七回目の開催となった林業まつりは、毎回多くの方々にいただけている県内有数のイベントとして定着してきました。今後とも、県民の皆様には森林・林業・木材産業の重要性についてご理解いただくとともに、木材の良さや森の恵みを実感していただけるよう、関係者の皆様と運営してまいりますので、皆さまの御協力をよろしくお願いたします。

〔県林業振興課〕

やまがた美しい森林づくり推進大会開催

(第64回山形県林材業年次大会)



十月十四日(土)、山形県総合運動公園において「やまがた美しい森林づくり推進大会」(第六十四回山形県林材業年次大会)が、約二〇〇名の参加者を得て開催されました。

◆大会

高橋大会副会長の開会の言葉で始まり、細野大会会長の主催者挨拶、各林業団体から寄せられた多くの要望・提案事項の主旨説明、大会決議の提案と進められました。提案事項については、阿部大会副会長からその概要について一括

して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。また、安部大会副会長が大会決議を提案し、提案への取組み、予算確保要請について満場一致で決議されました。

続いて、若松副知事(山形県知事代理)、矢野整備課長(林野庁長官代理)、志田県議会議長から祝辞があり、盛会裏に終了しました。

◆提案事項

多くの林業団体から提案された森林・林業・木材産業全般に亘る諸課題から、重点課題を取上げた内容となっており、次のとおりです。

「やまがた森林ノミクス」の推進

地域の森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築するため、次の事項を提案しました。

(一) 森林境界の明確化、森林施業の集約化・機械化、林道・作業道などの路網整備を早急かつ計画的に推進するとともに、再造林、保育、苗木生産等に対する支援を強化し、緑の循環システムを構築すること。

(二) 地域林業の担い手である森林組合、林業事業体等の育成強化を図るとともに、県立農林大学校での新たな担い手の育成や、緑の雇用事業等を活用した現場技能者の育成を積極

的かつ計画的に進めること。

(三) 木材の加工・流通を担う木材産業の育成強化を図るとともに、木材加工流通施設、木質バイオマス関連施設整備等への支援を強化すること。また、特用林産物の生産振興策を強化し、山村地域の活性化を図ること。

(四) 県産木材の需要を拡大するため、公共建築物や東京オリンピック・パラリンピック関連施設、民間施設等への木材利用を促進するとともに、「林工連携」による森林資源を起点とした新たな技術や製品等の開発を促進すること。

(五) これらの取組みを総合的に推進するため、「次世代林業基盤づくり交付金」や「林業成長産業化モデル事業」、「やまがた森林ノミクス関連予算」等の拡充・強化を図ること。

2 災害に強い多様で健全な森林づくりの推進

森林の持つ公益的機能を持続的に発揮させ、地球温暖化の防止と安全安心な県土づくりを進めるため、次の事項を提案しました。

(一) 頻発している集中豪雨や台風、地震等による山地災害から県民の生活と暮らしを守るため、治山事業・森林整備事業等による災害に強い健全な森林づくりを、計画的かつ積極

的に推進すること。

(二) 「やまがた緑環境税」を活用した荒廃森林の整備や森林資源の循環利用を計画的に進めるとともに、企業等の社会貢献活動や県民参加の森づくりを一層推進すること。

(三) 国土の保全、地球温暖化防止など森林の公益的機能の発揮のため、森林整備の新たな財源として「森林環境税(仮称)」を早期に創設すること。その際、森林整備を担う市町村の体制整備を進めるとともに、本県等が導入している森林整備に関する超過課税との関係を明確化すること。

(四) 森林の公益的機能を確保するため、保安林の計画的配備や水源林の整備、林業公社等による森林整備を促進するとともに、松くい虫やナラ枯れ被害を防止するための森林病害虫防除対策をより一層推進すること。

(五) 森林資源の循環利用や健全な森林づくりを推進するため、国・民有林の連携を強化するとともに、低コスト施業技術や森林環境の維持管理技術、木材・特用林産物の生産利用技術等の開発・普及を促進すること。

◆おわりに

本大会で採択された提案事項については、国・県等に提案・要望してまいります。(山形県森林協会)

山形県林工連携コンソーシアムの設立について

◆はじめに

県では、「やまがた森林ノミクス」を宣言し、本県の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として積極的に活用することで産業を振興し、地域の活性化に結びつける取り組みを推進しています。

豊かな森林資源を起点として、林業事業者及び木材産業事業者、工業関係事業者、建築関係事業者、関係分野の大学及び研究機関等の相互の連携による新たな技術・製品の開発を行う「林工連携」は、地域活性化につながる重要な施策です。

◆設立総会

コンソーシアム設立のため、平成29年9月15日、山形市内で、山形県林工連携コンソーシアムの設立総会が開催されました。

若松副知事による挨拶の後、この設立総会に先立って開催された設立準備会において、準備会の代表に選ばれた山形大学名誉教授の柴田洋雄先生が、議長として登壇しました。

林工連携コンソーシアムの「会則」、「組織体制及び役員」並びに「平成29年度の事業計画」について事務局

から提案が

あり、拍手により承認されました。

役員等については後述のとおりです。

役員の皆様よりそれぞれ

ぞれ御挨拶をいただいた後、設立総会は閉会しました。

◆設立記念講演会

設立総会に引き続き、日本製紙株式会社社の研究開発本部CNF研究所所長の河崎雅行氏より、「CNF（セルロースナノファイバー）の量産化・展開戦略について」という演題により、御講演いただきました。

御講演に先立ち行われた柴田会長の御挨拶では、木材関連産業の県経



済に対する波及効果について、県産木材を5%利用すると100億円の経済効果があるとの調査が紹介されました。

御講演では、日本製紙グループの

事業とCNFの開発の背景、国内外の開発状況、CNFの特性と用途開発等についてお話し



いただきました。CNFは木材を原料とし、自動車部品や電子材料の素材としても開発が進められている新素材とすることで、質疑応答の時間には会場から質問が相次ぎ、関心が一気に高まったようでした。

◆交流会

講演会終了後、会員による異業種交流会が開催されました。

会場には、CNFのサンプルのほか、会員企業のパンフレットや床材

及び不燃化粧板のサンプル、県産木材の照明器具、西山杉の原木見本等が展示され、交流を盛り上げました。

◆林工連携コンソーシアムの概要

◎会長 柴田洋雄（山形大学名誉教授、元やまがた森林ノミクス推進懇話会会長）

○副会長 佐藤景一郎（山形県森林組合連合会 代表理事会長）、安房毅（山形県工業会 会長）、白田洋一（山形県農林水産部長）、平山雅之（山形県商工労働部長）

○運営委員会

林工連携コンソーシアム会長、山形県森林組合連合会、山形県木材産業協同組合、やまがた県産木材利用センター、（一社）山形県建築士会、（一社）山形県建築協会、山形県工業会、（公財）山形県企業振興公社、（公財）山形県産業技術振興機構、（一社）山形県銀行協会、国立大学法人山形大学農学部、同工学部、学校法人慶應義塾慶應義塾大学先端生命科学研究所、独立行政法人国立高等専門学校機構 鶴岡工業高等専門学校、山形県農林水産部、同商工労働部

○会員 76名（設立時。随時募集中です。）

〔県林業振興課〕

やまがた緑環境税活用事業

「みどりの循環」体験イベントを開催しました

県では、県民の皆様が「森を守り、育て、暮らしに活かす」「みどりの循環」を気軽に体験できるイベントを開催しています。

ここでは、今年度開催した家庭で育てたどんぐりの苗木を森にかえす「森のホームステイ」と、森を育て暮らしに活かす「間伐体験&森のエネルギー見学会」などを紹介します。

◆森にかえす「森のホームステイ」

やまがた森の感謝祭や林業まつりなど様々なイベントに参加し、竹ポットにどんぐりを植え、家庭で苗木を育てていただいた皆様を、「もくろツクの森植樹会」「イオンの森植樹会」、「南陽・草木の森森づくり活動」、「トラックの森植樹会」に案内しました。



県内4か所で、家庭で竹のポットで育てた苗木を植樹

「イオンの森植樹会」は、九月二十四日（日）、飯豊町「源流の森」

周辺のイオンの森で開催されました。昨年度に引き続き、現地に作られたマウンドに参加者全員で約八十本の苗木を植栽しました。当日は森のホームステイの植栽のほか、イオンリテール株式会社関係者九十七名による育樹活動も行われました。



南陽「草木の森」森づくり活動の様子
60名が植樹を行いました

「南陽・草木の森」森づくり活動」は、十月六日（金）、南陽市宮内地区で開催されました。企業や一般参加者六十名がブナ、コナラ、クヌギなど約一五〇本を植樹しました。「もくろツクの森植樹会」や「トラックの森植樹会」にも多くの方に

来ていただきました。参加した方には、活動を通じて、森に触れ、その大切さについて理解を深めていただきました。

◆森を育てる「間伐体験&森のエネルギー見学会」

九月三十日（土）、鶴岡市山五十川の杉林で開催しました。一般参加者十三名が参加し、講師から森の手入れの話聞いた後、チェーンソーでの伐採を見学しました。その後林の中に入り、のこぎりでの枝打ちや林業機械の試乗などを体験しました。体験終了後は、鶴岡市下山添にある木質バイオマス発電所（株式会社鶴岡バイオマス）に移動し、伐採された丸太がチップに加工され、それを燃料に火力発電が行われる過程を見学しました。なお、同体験・見学会は、十一月十八日（土）にも開催する予定です。



プロセッサの試乗体験

◆木を暮らしに活かす「木工体験会」林業まつり、やまがた環境展2017において、木を暮らしに活かす木工体験会を開催しました。今年は県産スギを使ったペン立てを作りました。



県産スギを使った木工体験

参加した子どもたちは、思い思いに絵を描いて、自分だけのペン立てを作っていました。また、作業する中で木の香りを楽しむ様子も見られました。

◆おわりに

県では、今後とも気軽に取り組める森づくりイベントを企画してまいりますので、ぜひ参加してください。
〔県みどり自然課〕

村山素材生産システム クリニック事業の実施について (生産性の向上を目指して)

◆はじめに

村山総合支庁管内の各事業体における高性能林業機械の保有台数は、県内で最も少なく、素材生産現場での機械化が遅れていることから、「やまがた森林ノミクス」での素材生産目標を達成するため、素材生産性の向上を目指し、今年度総合支庁提案事業の新規事業として「素材生産システムクリニック事業」を実施したので、その概要を紹介します。

◆事業内容

当事業は①現作業システムの検証(対象は西村山地方森林組合)、②素材生産システム効率化研修の二本立てで、七月十日〜十一日の二日間にわたり実施しました。講師は全国的な先進事例のノウハウを熟知している専門家として日本林道協会事業部長の小原文悟氏に依頼しました。

①については、講師から組合の経営内容や保有機械、人員、作業計画の立案方法、地質や作業路作設手順、造材規格、出荷先等について聞き取り調査があり、現作業システムの効率化のためには、選木を作業者に委

ねる、かかり木になる木は切らない、最終造材場所の選定(4m材と2m材では積込手間が2倍違う)等についてアドバイスを受けました。

また②の研修会では、作業路作設で重要なことは現場の表層地質に関心を持つことや、工程改善のためには、日々の進行状況を正確に把握し障害を改善していくことが重要であることなどの紹介があり、さらに、林業の現場で未来ある若い作業員の死亡事故が無くならない現状から、高性能林業機械の導入は単に効率性だけでなく、最も危険なチェーンソーを使用した工程を極力少なくする目的があるという、熱いメッセージもいただきました。

◆今後の取組み

今回の指摘を受けた事項の現場への反映と検証を行い、さらに、十月に二回目の研修会を高性能林業機械の実践現場で開催し、素材生産増大に向けた次のステップを検討する機会にしたいと考えています。

〔村山総合支庁森林整備課〕



森の民 フィールドアスレチック リニューアル 「森の砦」

山形県民の森は、昭和56年にオープンし、36年目を迎えました。

この間、森林浴・森林環境学習などの場として540万人を越える県民の皆様にご利用いただいています。この度、村山総合支庁では、県民の森にあるフィールドアスレチックの「森の砦」を更新しました。

フィールドアスレチックは県民の森中央広場の南側にあり、13の遊具で構成され、小学生から大人までが楽しめる施設となっております。多くの県民が利用しています。

今回更新した「森の砦」は、フィールドアスレチックの中心を構成する高さ3・3m幅2・2m、奥行き2・7mの大規模遊具で、直径20cmの山形県産スギ材を柱にするなど、多くの県産木材を利用しています。

設置場所は、フィールドアスレチックコースの一番高い位置にあり、砦上部からは、山形市内を眺望できます。また、ネットやロープを使っ

て登り降りする構造で、子どもが大好きな冒険的要素も含まれています。今後も県民の皆様にあ愛される施設となるよう、施設の維持管理及び指定管理者と協力して自然と親しみながら保健・健康に役立つプログラム

の充実に努めていきます。
〔村山総合支庁森林整備課〕



緑の少年団

平成二十九年 村山地域交流研修会の開催

山形県では緑を大切にしている少年・少女を育成するため、毎年緑の少年団を対象に、団員同士の交流と連帯を深めながら、森林体験学習に取組む交流研修会を毎年各地域で開催しています。



で採取した好きな葉っぱに絵の具を塗り、無地のバッグにスタンプを



して、オリジナルのマイバッグづくりを楽しみました。第二

村山地域では交流研修会を例年二回開催しており、今年度の第一回目を、七月二六日に朝日少年自然の家（大江町）で開催しました。緑豊かな自然を舞台に、午前の活動では、講師の先生のお話や樹木の写真をヒントに自然の中から同じ特徴の樹木を見つけ出すビンゴゲームに取り組み、先生から樹木に関するお話を聞きました。午後の活動では、

第二回目は、八月九日に山形市少年自然の家（山辺町）で開催する予定でしたが、台風のため中止となりました。今年度は一会場のみで開催となりましたが、延べ七回、五一名の少年団員は活動を通して、自然や森林に親しみ、楽しみながら、普段はあまり交流の機会がなかった他の少年団との交流を深めることができました。また、団員からは、「また参加したい」、「もっと森の中で活動したい」といった声が聞かれ、自然環境に対する関心をより高める有意義な活動になりました。

〔村山総合支庁森林整備課〕

「やまがた緑環境税」活用事業 「やまがたの森づくり発表会」 開催のお知らせ

県では、「やまがた緑環境税」を活用した森づくり活動の成果を広く県民の方々に発信するため、左記日程により森づくり発表会を開催しますので、是非ご参加ください。（事前申込み不要・参加費無料）

◆開催内容

- ・森づくり活動のポスター展示
- ・森づくりに関する講演
- ・森づくり活動団体や市町村、企業などによる活動報告

◆お問い合わせ

各総合支庁森林整備課
森づくり推進室まで
〔みどり自然課〕

日時	平成29年12月9日（土） 12:00～16:00
場所	天童市総合福祉センター 屋内運動広場
内容	《講演》 講師：国立研究開発法人 森林総合研究所 主任研究員 井上 真理子氏 演題：「子どもたちと楽しむ森林教育」 ～“やまがたの森林教育”を一緒に考えよう！～ 《代表発表》 みどり豊かな森林環境づくり推進事業 実施団体及び市町村等から4団体

地域の暮らしをしっかりとバックアップ!!

総合電設業、木質燃料(ペレット)製造販売、一般廃棄物・産業廃棄物リサイクル事業

(株) 渡会電気土木

代表取締役社長 武田 啓之

本社／鶴岡市下山添字一里塚36

☎0235-57-2454(代) FAX 0235-57-2345

環境事業部・田代工場／鶴岡市田代字広瀬16-2

☎0235-57-4778(代) FAX 0235-57-4786

庄内工場／東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4

☎0235-57-4778(代) FAX 0235-57-4786

営業所／酒田・山形・米沢・新庄・仙台・酒田共同火力工事事務所





みどりのページ

郷土の名木・古木等
保全事業の実施に
つなぐ

平成29年度 郷土の名木・古木等保全事業 交付決定一覧表

所在地	名木・古木等の名称	樹種	採択額 (千円)
山形市	平泉寺の桜	ベニシダレザクラ	500
天童市	熊野神社の大ケヤキ	ケヤキ	500
河北町	熊野神社の榎	ケヤキ	500
米沢市	長町裏のエゾエノキ	エノキ	496
鶴岡市	注連寺七五三掛桜	カスミザクラ	500
合計			2,496

公益財団法人山形県みどり推進機構では、平成28年度に「郷土の名木・古木等保全事業」を制定し、県民共通の財産である名木や古木の保全に取り組んでいます。

この事業は、県または市町村の指定を受けた天然記念物の樹木を対象に、樹木医の診断、指導のもと樹勢回復作業や保全措置を行っていくも

ので、8月に開催された選考委員会において今年度を実施する5件の樹木が決定しました。

このうち、米沢市にある「長町裏のエゾエノキ」の樹勢回復作業が十月上旬に行われましたので、その概要を報告いたします。

長町裏のエゾエノキは、昭和31年に県の指定を受けた天然記念物で、(宗)熊野大権現のご神木として信仰され、また、地域のシンボルとして親しまれてきましたが、近年は幹の腐朽や樹勢の衰退が顕著であり、倒木や枝折れが懸念される状況が続いています。

このため、本事業の採択を受け、樹木医である枝松吉男氏と三森和裕



樹木医による指導を受けながら実施した土壌改良作業の様子

氏による診断・指導のもと、根の活性化を図るための土壌改良や活力剤の投与、空洞部に発生している不定根(幹や枝から発生する根)を地表部まで誘導させるための処置を行いました。

これだけの古木ですので、本事業の効果が現れるまでには時間がかかるかもしれませんが、樹勢が回復して雄大な樹形を取り戻し、末永く地域を見守っていつてくれることを期待いたします。

平成二十九年度の緑化功労者の表彰が行われました

◆期日 平成29年9月28日

◆場所 宮城県南三陸町ホテル観洋
平成29年度東北・北海道地区緑化推進協議会において緑化功労者の表彰式が行われ、山形県からは「天童・不思議の森」が表彰されました。

当団体は、天童市内に本社を置くほほえみの宿滝の湯、東北バイオニア(株)、(株)天童木工、(株)新東京ジオ・システム(敬称略、順不同)の4社が協力しあい、天童市内の南東部にある13・7haの森林で間伐や下刈り、枝打ちなどの森づくり活動を行っています。

間伐した材は構成企業の一つである(株)天童木工の工場で加工し、ベンチやプランターカバーを製作し、毎年、公民館や保育園等の公的施設に寄贈しています。このような取組みは一つの分野に限定した社会貢献活動にとどまらず、森林の整備に加えて森林資源を有効活用し、できた製品が将来に渡って役立つというスタイルを作っています。

また、子ども向けに間伐材を利用した「将棋の描き駒のワークショップ」を開催する等、地元産のスギ間伐材の利用拡大に積極的に取り組んでいることが高く評価されました。

当団体の功績に敬意を表するとともに、今後ますますの活動の発展をご祈念申し上げます。

(公財)山形県みどり推進機構



東北・北海道地区緑化推進協議会会長から表彰状を受け取る「天童・不思議の森」の受賞者



— 緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H29. 8. 1~9. 30)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

みどりのページ

(株)アーレスティ山形、(株)相田商会、(有)青木建材、(株)青葉堂印刷、秋保建設(株)、曙ブレーキ山形製造(株)、(株)アサヒ技術、旭自動車(株)、(株)朝日測量設計事務所、芦野工業(株)、(株)安部組、(有)アルファ設計、飯鉢工業(株)、五十嵐工業(株)、池田機械工業(株)、(株)伊藤造園土木、(株)伊藤熱処理、(有)伊東農園、イノチオ東北(株)、衣袋建設(株)、(有)今川自動車商会、(有)入野商会、(株)ウェステック山形、(株)漆山木材店、(株)エイアンドシー、(株)エービーエム、(有)エコファーム長井、(株)エスアンドケイ、(株)エスパワー、(株)エヌイーエスコポレーション、エムテックスマツムラ(株)、M木工、(有)遠田林産、(株)王祇建設、(株)大風印刷、(株)オオバ、尾形興業(有)、置賜クリーン設備(株)、奥山建設工業(株)、(株)小澤商店、オビスアン(株)、(株)カキザキ、(株)柿崎工務所、笠原建設工業(株)、(株)春日測量設計、勝川建設(株)、(有)葛麓運輸建設、(有)門脇産業、(株)金沢総合コンサルタンツ、(株)カナル、ガラスやいせや、(株)カルイ、(株)環境管理センター、(株)菊地建設、北日本特殊イサベラ建設(株)、共和防災建設(株)、工藤石油店、(株)工藤測量設計、(株)クネット東北、(有)くまがい、(株)クリーンシステム、(株)黒田組、(株)ケンコン、(有)県南エコサービス、(株)幸輪、(有)小関興業、(有)後藤クリーン商会、(株)後藤材木店、(有)後藤竹材店、小林防護工事(株)、コマツ山形(株)、(株)小森マシナリー、(株)コヤマ、斎藤建設(株)、(株)斎藤板金工業所、蔵王食品(株)、(株)蔵王ミート、(株)ザオー測量設計、(株)寒河江技術コンサルタント、(株)寒河江測量設計事務所、(株)佐藤組、(有)佐藤砂利販売、(有)佐藤測量設計事務所、(株)佐藤防災、(有)三英クラフト、(有)山栄測量設計、(株)三益堂、(有)三幸園、(株)三和、(株)三和技術コンサルタント、三和油脂(株)、J A全農北日本くみあい飼料(株)、(株)下山製材、(有)ジョイランチ、庄内赤川土地改良区、城北電気工事(株)、白田製材所、伸栄伝導機工(株)、(株)新庄砕石工業所、(有)真和技建、新和設計(株)、(株)菅野測量設計、(株)スカワ、須川工業(株)、(株)菅原工務店、(株)菅原工務所、すずぎ看板、(株)鈴木久測量設計事務所、(株)鈴木測量事務所、(株)スペースパーツ山形、精英堂印刷(株)、(株)セイノコーポレーション、(有)西部サッシ、(株)成和技術、ソック(株)、(株)大栄、(株)大商金山牧場、(株)ダイシン、(株)大和エンジニア、大和工管(株)、高島電機(株)、(株)高梨製作所、(株)タカハタ電子、(株)高良山形営業所、(株)滝の湯ホテル、田宮印刷(株)、(株)田村測量設計事務所、(株)丹野、タンノ清掃興業(株)、(株)中幸製作所山形工場、角田商事(株)、鶴岡ガス(株)、鶴岡市農業協同組合、(株)テトラス、テルス(株)、天神森調剤薬局、(株)天童木工、(株)でん六、東光計測(株)、(有)東北環境総合サービス、東北クリーン開発(株)、(株)東北工材、(有)東北紙商、(株)東北消防設備、東北シルク(株)、東北銘醸(株)、十和建設(株)、(株)トーホー、(株)トプコン山形、内外緑化(株)、(株)永田プロダクツ、(株)ニクニ白鷹、(株)沼澤工務店、沼田建設(株)、ハイメカ(株)、(株)畑山、ヒミヤ石油工機(株)、(有)毘龍レンタカー、ファイン精密(株)、藤庭園、(株)フジミ、(株)双葉建設コンサルタント、(株)フューメック、ブレンスタッフ(株)、文化清掃(有)、(株)北桜林業、(株)北都測量設計、(株)本間利雄設計事務所、マックル(株)、(株)丸江製作所、(株)マルカ、(有)丸吉製作所、(株)マルコウ環境、(有)丸三製材所、丸七建設(株)、マルミツ産業(株)、ミクロンメタル(株)、水澤化学工業(株)水沢工場、ミドリ鮭川工業(株)、(株)ムラヤマ、明立工業(株)、(株)メカニック、最上川土地改良区、(株)やいち、(有)安野測量事務所、(株)矢作組、山形いすゞ自動車(株)、(株)山形一進社、(協組)山形ウッドエネルギー、山形ガス(株)、(株)山形銀行県庁支店、山形空港ビル(株)、山形警備保障(株)、山形健康管理センター、(公財)やまがた健康推進機構、(公財)山形県産業技術振興機構、山形県商工会連合会、山形県職業能力開発協会、山形県信用保証協会、山形県森林土木建設業協会、(一社)山形県測量設計業協会、(公社)山形県畜産協会、山形県土地改良事業団体連合会、(一社)山形県土地改良建設協会、(一財)山形県理化学分析センター、山形航空電子(株)、山形酸素(株)米沢営業所、山形食品(株)、(株)山形新聞社、山形信用金庫、(株)山形テレビ、山形電子(株)、山形富士電機(株)、(株)山形ミートランド、(株)山形メイコー、(協組)山形木造住宅プレカットシステム、山形緑十字(株)、(有)山口製材所、(有)ヤマサオートセンター、山新建装(株)、山田建設(株)、(株)ヤマトテック、(株)ヤマムラ、(株)山本製作所、(株)ユアシス、(株)横山測量設計事務所、(株)理研分析センター、ロータス山形(株)、ワイエム技研(株)、(有)渡辺鋳造所

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

企業局
だより

山形県企業局 の事業

今回より3回シリーズで
企業局の情報をお伝えします。

■水道用水供給事業

山形県企業局では森林により育まれた県内の豊富な水資源を活用しながら水道用水供給事業を展開しております。

昭和53年に策定された「山形県水道整備基本構想」に基づき県内を置賜、村山、最上及び庄内の4圏域に区分した広域水道供給事業は、昭和58年4月に置賜地域で供給を開始して以来、順次、村山地域、最上地域で供給し、平成13年10月に庄内地域での給水開始により、県内4ブロックへの供給体制が整いました。

この広域水道では、年間7千6百万m³(平成28年3月現在)の水道水を作っています。これは、県内で使用する上水道の約58%にあたります。各浄水場から受水市町に送水し、各市町がご家庭に水道用水をお届けしております。

庄内広域水道 用水供給事業



最上広域水道 用水供給事業



村山広域水道 用水供給事業



置賜広域水道 用水供給事業



- [凡例]
- ▲ ダム
 - 浄水場
 - 受水団体配水池
 - 導・送水管路

山形県企業局の森づくり活動

山形県企業局の森づくり活動

山形県企業局では水道水の水源に位置する森林の保全、森づくり活動を通して地域との交流を目的に森づくり活動に取り組んでいます。

企業局絆の森とは

「企業局絆の森 月山仁田山」事業は、村山広域水道水源域の西川町月岡地域において、山形県、西川町、本道寺地区会及び山形県企業局が協定者となり、平成26年10月から活動



を行っています。今年度は、職員による下刈り等の森づくり活動を行うとともに、委託による林内整理や除間伐を実施しています。

活動の目標

○森づくり

活動により村山広域水道水源域の森林の公益的機能の維持・向上に貢献します。

○職員自らが環境保全に積極的に取り組むことにより、地域に対し水環境保全活動の重要性の普及啓発を図ります。
○森づくりを通じて地域との絆を深めます。



活動場所
西川町大字月岡字仁田山内

山形県企業局コンサート♪ ～水の調べ～

入場
無料

12月1日(金)

午後7時開演 (開場:午後6時)

寒河江市市民文化会館

～プログラム～

- 第1部：山形県民の歌「最上川」
交響詩「モルダウ」/スメタナ
交響曲第6番「田園」/ベートーヴェン 他
第2部：行進曲「美中の美」/スーザ 他
(共演：寒河江中部小学校マーチングバンド)

- 【申込方法】 ハガキまたはFAXによる
【宛 先】 〒990-0042 山形市七日町3-1-23
山響チケットサービス あて
【内 容】 申込者の住所、郵便番号、氏名、電話番号
鑑賞人数を記入 (申込1件につき2人まで)
※小学生以上が入場可能
※託児所あり (「託児所希望」を記入)
【締 切】 11月24日 (金)
※定員 (936名) に達した時点で受付終了
【問い合わせ】 山響チケットサービス
TEL: 023(625)2204
FAX: 023(625)2205



出演 山形交響楽団



共演 寒河江中部小学校マーチングバンド



指揮 渡邊 一正

この記事に対する
お問い合わせは

担当課：山形県企業局水道事業課 担当：経営戦略推進・水道管理担当
TEL/FAX：023-630-2345 / 023-630-2741

「コロラド研修記」アメリカ農林業視察研修から

◇2年生全員がコロラド州の農林業について学ぶアメリカ農林業視察研修は、今年で26回目を迎えました。

今回からは林業経営学科が加わり、新たな研修のスタートとなりました。今回は、林業経営学科の主な研修内容をお伝えします。

●コロラド州フォレストサービス苗畑視察

コロラド州フォレストサービス(以下、CSFS)は、コロラド州立大学(以下、CSU)の森林・林業、野生動物、天然資源等関連の学部である Warner College of Natural Resources (以下、WCNR) に属する機関で、民有林等の施業技術支援や山火事被害対策技術支援、森林経営指導などを行っています。ここ

CSFSの苗畑



ロッキポールパインのコンテナ苗

畑では、毎年、ロッキポールパイン、ヤナギ類など50種類を越える樹種の

苗木約100万本を出荷しています。コロラドでは落雷による山火事が多く、また、甲虫(パインビートル)による

ロッキポール

パインの枯損被害

が急激に拡大していま

す。ここで生産された

苗木は、主にこのよう



ロッキー山脈の山火事被害地

な被害跡地や野生動物の生息環境の保全、土砂流出防止など森林保全のために使われています。さらに、苗木を植栽するボランティア活動などを通して、森林保全への意識を高める教育活動も行っているとのことでした。

●CSU学生とのフィールド交流

デンバー北部のフォートコリンズにあるCSUのキャンパスの西方、ロッキー山脈の山麓、標高約200mにある同校のマウンテンキャンパスで、CSU学生及びフォレストサービス

パインから薪を作る作業を行いました。本校

林業経営学科の学生は、慣れたチェ

ーンソーワ

ークで枯損

木を次々と

処理すると

ともに、CSUの学生

と力を合わせて薪を運

搬しました。始めは英語

がなかなか通じず会話

が進まなかったものの、共同作業を

行う中で、覚えている単語を総動員

しながらコミュニケーションができたようになりまし

た。また、作業終了後は、本校、増川真也と菅原涼子



チェーンソーでの薪づくり



作業を終えて...

●ボルダーカウンティ パークス

アンド オープンスペース
ここは、ボルダー市の周辺に寄付

金によって購入された、森林区域約12000haを含む約41000haの自然環境に配慮した土地利用を行う保全区域です。研修では、森林火災の防火帯造成に伴う伐採木とパインビートル被害木からチップを生産する現場を視察しました。日本では馴染みの薄いフェラーバンチャー及びトレッラーの大きさに圧倒されました。



フェラーバンチャーによる伐採

◇今後の交流への期待

今回の研修では、コロラドにおける山火事や虫害の深刻さを目の当たりにしました。同時に、あらためて日本の森林の豊かさを実感することができました。また、短い時間でしたが、WCNR学部長と面談し、今後のCSU学生との継続的な交流の方向性も見えてきました。森林の現状は異なりますが、森林という同じフィールドで同じ大切な資源を守り育て利用するという共通の目的を持つ若者の交流が、将来、双方の森林・林業の発展につながることを期待しています。〔山形県立農林大学校〕

対談シリーズ「森林組合長に聴く」

第6回目は出羽庄内森林組合代表理事組合長菅原 勝氏と森林研究研修センター古川和史所長との対談です。

【対談者の紹介】

○出羽庄内森林組合

代表理事組合長 菅原 勝

鶴岡市板井川地区在住。

組合長8年目

山形県林業研究会会長。



森林ノミクスで行っている出口戦略のメリットの現れだと思えます。

所長…収支上はここ数年安定した経営した経営をなされていると思えます。内訳を見ると病害虫防除事業を含めての森林整備事業が五割は、販売事業が4割です。以前の販売事業

は2割程度で、ここ数年でその割合が増えてきていますが。

組合長…これは、森林ノミクスで行っている出口戦略のメリットの現れだと思えます。集材工場やバイオマス発電所などへの需要が増えたおかげだと思えます。

前は売れないものを伐つても、山に並べておくだけでしたが、今は積極的に出荷しています。

所長…これからも販売事業は伸びていくという考えでいいでしょうか？

組合長…そうですね。これからも伸ばしていきたいと考えています。これまで出口がないと言っていたわけですが、今のような需要ができたというところにメリット感じています。量も出さないので、値段の話をするとはもつてのほかです。

今の倍以上の4〜5万㎡位は生産できると考えています。

所長…ここ数年の生産計画はいかがですか？

組合長…林道を整備しないとなかなか出せません。小さいトラックで途中まで出して、大型トラックに積み替える作業だけかなりコスト増になります。今はとりあえず条件のいいところからだしています。当面は、既存の林道の拡張も必要だと

思います。

所長…道路もそうですが、労務が間に合うかも生産量増に大きな影響を与えると思えます。

組合長…今の体制でも増産は可能だと思いますし、不足すれば協力企業に外注します。今の倍以上の生産できると考えています。すべて直営で作業員を増やすという事は、機械をはじめとするさまざまなものを整備する必要があり、すぐにはできません。特に機械は生産規模に合わせたものをそろえる必要があります。

女性が入ることにより、職場の雰囲気ガラッと良くなりました。

所長…最近女性作業員を雇用していますが？

組合長…九州のほうでは東京の大学を出た女性が働いています。その人たちは、給料も待遇も男と同じにしてほしいと考えています。女性が入ることにより、機械の操作が丁寧になり、職場の雰囲気もガラッと変わって良くなりました。

できない、できないと言っている時ではないです。

所長…山形県では、今まで生産が縮小しきつていたのだと思えます。皆さんは労務も機械もないので、いきなり増産を求められてもできないと

おっしゃられる。

組合長…私はそんなに大変なことではないと思えます。県内に13の森林組合があります。一つの組合が5千㎡ずつ出せれば7〜8万㎡位はすぐに増産できると思えます。

なんでできないか原因を突き止めて、できるようにすればいいのと思えます。できない、できないと言っている時ではないです。

時代の先を見る目が必要だと思います。みんなが経営計画を立て、上手に制度を利用すればいいだけです。最終的には県森連にもっと指導力を発揮していただきたいと思えます。

所長…とにかく材が動けば動くほど、わずかな利益率でも収益は増えます。そういった意識で動けるといいですね。

組合長…今後森林組合としては、山を守っているだけではだめです。これまで何十年も山を育ててきた組合員の山を活かしてあげないといけないと思えます。そうしないと再造林にもつながらず、伐りっぱなしの荒れた山が増えていくと思えます。

平成29年9月13日

出羽庄内森林組合にて対談

対談全文はセンターホームページで

「森林研究研修センター」

森の人紹介

青年林業士 四柳 徹也さん
(米沢地方森林組合)



山形県青年林業士の四柳さんは、米沢地方森林組合に勤めており、今年度から新規事業課長として活躍されています。

今回はその取組内容(事業)のひとつをご紹介します。事業は、「広葉樹の多様な活用を通じた森林の再生」をテーマとしており、昨年度、公益信託 農林中金森林再生基金の事業採択を受けました。置賜管内には豊富な広葉樹資源があり、里山林として活用されてきましたが、近年は利用されず高齢化したナラ枯れ等の森林被害が拡大しています。この被害を防ぐには、広葉樹林の若返りが必要ですが、そのためには、伐採された木をいかに使う(使ってもらおう)かが重要であり、その手法として、「薪」と「木炭」に取組んでいます。

「薪」については、昨年度初めて

開催した「樹の駅」を、今年度は回数を増やして開催しています。寸法は2m程度で太さ8cm以上の丸太であれば、樹種を問わず、現金で買取しています。

「木炭」は、米沢市と南陽市で生産していますが、今年度、米沢市に新たな炭焼き窯を建設し、黒炭の増産を目指しています。きっかけは、「置賜産の木炭は火持ちの良さなどで高い評価を得ながらも、職人の高齢化で生産量が減り続けている。作り手と消費者の間に立ち、技術の伝承と雇用の創出を図りたい。」との米沢市内の燃料店からの提案でした。昨年度から山形県の支援を受けた商品開発に携わり、東北芸術工科大学からのネーミングやデザイン協力を受け、米沢産ナラ材を使った黒炭、商品名「やまが炭(たん)」が今年六月に完成しました。



明るく爽やかな四柳さんの人柄が、地域の信方からの信頼や結びつきにつながっているの

ではないでしょうか。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

「楽しく、生きがい、継続」を大切に
万里の松原に親しむ会
会長 三沢 英一さん



酒田市の国有林(万里の松原)を主なフィールドに、クロマツ林を守り育てる活動を継続して行っている万里の松原に親しむ会(以下「親しむ会」)会長の三沢英一さんを紹介いたします。

庄内地域の海岸砂防林(クロマツ林)は、風や砂の害を防ぐために先人が植林し、後世に残してくれた歴史的な財産です。この先人の偉業を次世代に引き継ぐため、三沢さんは、平成13年に発足した「親しむ会」の会長として、地域の小中学校等が行う森林環境教育や、枝打ち等の森林整備体験活動の指導に積極的に取り組んでいます。

学校と緊密に連携を取り、協力体制を築くのが、「親しむ会」の活動の特徴です。「学校との活動では、ていねいな打ち合わせにより、それぞれ

の学校の条件に合わせて、無理なく持続的に活動できるよう進めている。初めての先生には、現地を案内しながら打ち合わせを行うなど手間ひまもかかるが、先生方に学習の効果等を知ってもらうことが重要。

また、先生方も異動がある中で、学校と継続した活動を行うためには、県・市町等に加えて、地域の団体が間に入りサポートする体制が必要。」と三沢さんは話します。

東日本大震災後は、仙台市荒浜地区で海岸林再生のための「万里の森づくり」事業を始めるなど、ますます活発に活動している「親しむ会」。その秘訣を三沢さんに聞くと、「活動を楽しむことが大事。楽しい活動は継続できる、継続できると社会貢献につながり、生きがいになる」とのことでした。

長年にわたる森林ボランティア活動の功績が認められ、「親しむ会」には平成26年度に林野庁長官感謝状、県緑化等功労者感謝状等が贈られています。昨年には「親しむ会」設立15周年を迎え、さらに意気上がる三沢さん、地域の森づくりのリーダーとしての活躍を期待しております。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

普及情報

森林総合監理士等及び森林施業プランナー 技術向上研修の実施について

◆はじめに

平成二十一年一二月の森林・林業再生プランの公表以降、森林総合監理士制度及び森林施業プランナー制度が発足しました。平成二十九年四月時点で、県内において十九名の森林総合監理士と三十二名の森林施業プランナーが認定されており、やまがた森林ノミクスを推進していく上で、大きな役割を担うことが期待されています。

◆研修概要

・日時…九月一二日 十時～十六時
・場所…森林研究研修センター講堂
・受講者…森林組合等職員（プランナー等）一三名、県職員 九名
・内容…森林施業の最終目標（目標林型）を見据えた収支予測を行うための伐出見積システムの活用方法と、見積の前提条件としての丸太の採材方法及び流通を学ぶ事で、森林総合監理士にあつては、地域の原木安定供給体制の整備に向けて、森林施業プランナーにあつては、提案型集約化施業におけるプランニング能力の向上を目的に実施しました。

① 採材方法と丸太の流通について

・講師 ノースジャパン素材流通協同組合理事長 鈴木 信哉氏
鈴木理事長からは、元林野庁の木材担当で培われた知識と、東北地方北部の丸太流通の一翼を担っているノースジャパン素材流通協同組合の業務内容や、用途に応じた採材の方法、特殊な用途での丸太の需要、原木の安定供給と採算性等について講義していただきました。

② システム収穫表の使用法と主

伐・間伐時の収支予測の演習
・講師 森林総合研究所 鹿又秀聡氏
鹿又氏からは、森林総合研究所で氏が中心となつて開発した、表計算ソフトを活用した「伐出見積りシステム」の操作方法について講義していただき、引き続き、生産コストの縮減に関する考え方も含めてシステムを使用するの演習を行いました。
両講義ともに各事業体の木材生産や販売に通じるものであり、受講生からは好評でしたので、今後も様々な研修を計画する予定です。

〔森林研究研修センター〕

伐出・植栽・一貫作業システム現地研修会の開催

◆はじめに

最上総合支庁では、林業の低コスト化と再造林を推進するため、伐採から植栽までを一連の作業として行う一貫作業システムの普及に取組んでいます。

この度、最上管内の民有林で初めて、一貫作業を実施することから、十月六日に管内の森林組合や素材生産業者、県立農林大学の学生など約百名が参集し、現地研修会を開催しました。

◆内容

はじめに、あまりなじみの無い言葉である「一貫作業システム」と研修会で植栽体験に使用する「コンテナ苗」の有効性について、山形森林管理署最上支署の担当者から、説明がありました。

その後、伐採から一連の作業の流れを視察し、農林大学の学生を主体とした参加者で少花粉コンテナ苗の植栽を体験しました。

今回、一貫作業に取り組んだ事業体からは、効率的な作業工程や枝条処理は経験を積まないと分からないことが多くあるとの話がありました。

◆まとめ

これまでは立木を伐採する業者と苗木を植栽する業者は別々に事業展開を行っていましたが、「一貫作業システム」では、伐採・搬出後直ぐに、伐採に使用した機械で地拵えを行い、植栽も同時進行で行うため、効率的な作業システムとして期待されています。これからも、現場の意見を参考にしながら、低コスト林業の普及と推進を図っていきます。



イメージ

〔最上総合支庁森林整備課〕

第十二回東日本チェーンソーアート競技大会開催

平成二十九年九月九日（土）、十日（日）の両日、山形県遊学の森を会場に東日本チェーンソーアート競技大会が開催されました。

今年も天候にも恵まれ、地元山形県内を始め、北は岩手県から、南は静岡県まで一五名のカーバーが集合しました。

九日は「メインカービング」で、九時から十六時までの七時間、「最上の四季」をテーマにカーバーが腕を競いました。

十日は「メインカービング」の作品の審査と「スピードカービング」です。

スピードカービングの課題は「鳥（ハシビロコウ）」、「干支（柴犬）」、「魚（錦鯉）」の3部門です。九十分でいかにそれらしくカービングできると腕の見せ所です。

予選審査後、各部門の上位一名が決勝に進みました。決勝の課題は、会場の観客の要望に答え、「龍」、「猫」、「鼻の親子」が選ばれ、三十分という短時間で競いました。

この二日間、豪快なチェーンソーカービングの音と、観客の笑顔が遊学

の森を満たしていました。

【主な入賞者】

「メインカービング部門」

優勝 佐藤 雄三

「I LOVE 最上 山からの贈り物」

（山形県）

準優勝 近藤 英二

「秋冬眠準備」

（山梨県）

三位 梅沢 康二

「カーバーズチヨイス部門」

（福島県）

優勝 梅沢 康二

「渡り鳥」

（福島県）

優勝 阿部 音文

「スピードカービング部門」

（宮城県）



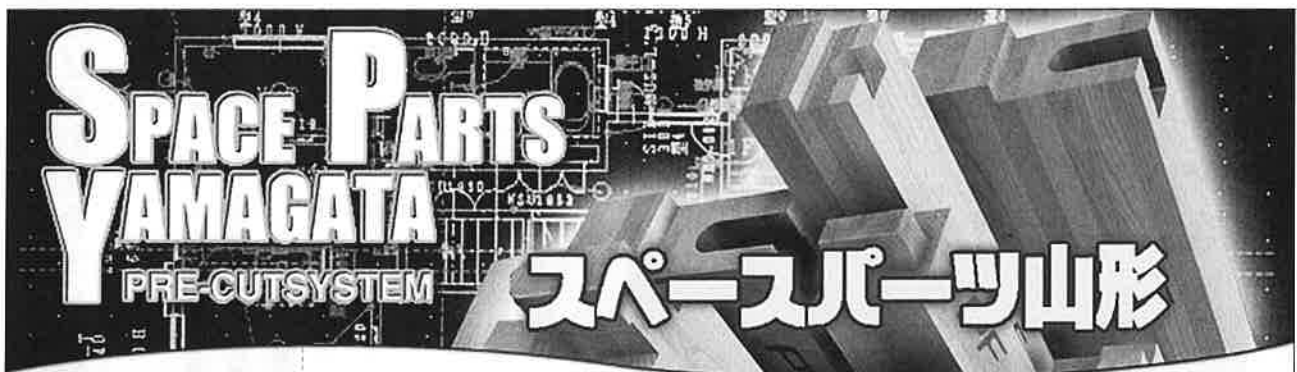
〔最上総合支庁森林整備課〕

健康家族は木の住いから



有限会社 **アイタ材木店**

〒990-2474 山形市沼木 5 7 8 - 6
TEL (023) 643-8201 / FAX (023) 645-5994



「木の家」のぬくもりを最先端の技術で住まいの品質と安全をサポートします。

「おきたま森の感謝祭2017」を開催

9月16日(土)、長井市草岡にある「古代の丘」を会場に、「そだてよう みんなの力で みんなのみどり」をテーマに「おきたま森の感謝祭2017」が開催され、地元の小学校や緑の少年団など約350人に参加いただきました。

秋晴れの中、世界で活躍する長井のけん玉パフォーマンス「秋元悟」さんのオープニングアトラクションで感謝祭がスタートしました。

式典では、緑化功労者として草岡生産森林組合と野川山入会共有地組合が表彰されました。その他、置賜地区の緑化運動・育樹運動標語・ポスター原画コンクールの入賞者16名が表彰されました。

森づくり活動では、企業や緑の少年団が中心となり、桜の植樹や植栽木への施肥が行われました。

高性能林業機械(プロセッサ)によるスギの枝払いと玉切りが実演されました。またたく間にスギが丸太材になっていく様に、観客の皆さんも驚いた様子でした。

また、会場では、ネイチャーゲームや木工クラフト、ペレットストー



森づくり児一旗の引継ぎ

ブをはじめとする木質バイオマスの紹介、けん玉の体験など、森林に親しむ様々なイベントが開催され、参加者の皆さんは時間いっぱいまで楽しんでいました。

この感謝祭をきっかけとして地域の皆様に森づくりの輪が広がっていくことを期待しています。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

緑の宝、暮らしに活かそう大事な資源

公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : y-ringyo@atlas.plala.or.jp

ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>

土砂災害を防止・軽減するには

「治山施設」が必要です

森林を整備・利活用するには

「林道施設」が必要です

山形県森林土木建設業協会 会長 堀川 隆志

◇事務所：山形市あさひ町16-21 TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454

白鷹町森林・林業再生協議会の取組み

森林境界明確化と森林整備(間伐)研修

◆白鷹町森林・林業再生協議会とは

白鷹町は、約1万6千haの面積のうち約1万haが森林となっていますが、このうち民有林面積が約9千haと約9割を占めているだけでなく、人工林面積は5千haを超えている(5割以上)状況です。また、これらの森林の多くが利用期を迎えていることや、所有界が非常に細かく筆数が多いことも特徴となっています。

このような中、平成25年、26年の2年続けたの豪雨により、町内各地で土砂崩壊や河川の氾濫などが発生したこと、森林所有者や地域が改めて森林整備の必要性について認識されました。

以上の背景から、森林の持つ多面的機能の持続的発揮や森林資源の活用を推進するため、平成26年6月に「白鷹町森林・林業再生協議会」が発足し、町内の川上、川中、川下の幅広い関係者が一体となり、町内の公共建築物等の木造・木質化や木質バイオマス利用と併せて間伐等の森林整備に積極的に取り組んでいます。

◆森林境界の明確化の取組み

協議会の議論の中で、最大の課題として「森林の所有界がわからない」ため森林の整備が進まないことが挙げられました。木材価格の低迷や山への関心の薄れ、所有界の分かる人の減少、山林の地籍調査の遅れなどが原因と考えられますが、とにかく「森林境界の明確化」に協議会として取り組むことになりました。

平成26年度以降、森林整備促進・林業等再生事業等を活用し、昨年度まで3地区計約175haの境界を明確化したほか、各地区で2年目に森林経営計画を作成、3年目以降は森林作業道開設と間伐を行っています。



現地での境界確認作業の様子

◆森林整備(間伐)前後の研修会

初年度から翌年度にかけて約67haの境界明確化を行った町北東部の滝野・十王地区では、平成27年度に西置賜ふるさと森林組合の受託による森林経営計画を作成、平成28年度に国庫補助金を活用した森林作業道の開設と間伐を実施しました。

これに合わせて、間伐の実施前後に地区住民などを対象にした研修会を開催しました。

昨年に開催した間伐前研修では、本数や高さ、太さなど森林の現況(状態)把握、間伐の必要性や方法について現地で学びました。



間伐前研修の様子

今年9月に開催した間伐後研修では、間伐の実施状況と収支実績の説明と、現地での間伐後の森林状況の確認などを行いました。

この現場では、55年生主体のスギ林約5haを間伐し、A・D材合わせて約300m³を搬出、また、森林作業道の開設により高性能林業機械での作業が可能となったことにより、約70万円を所有者に還元ができたことから、集約化やそのための境界明確化の必要性が改めて認識されたようです。



間伐1年後の森林の状況

◆おわりに

白鷹町の森林・林業の再生に向けて、今後も実施地区を順次増やしていくほか、町内全域への波及を目指すなど、本協議会の継続的かつ効果的な取組みを期待しています。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

産学官民連携し普及へ

バイオマス資源熱利用実証事業について

◆はじめに

県を挙げて再生可能エネルギーの導入推進施策が展開される中、庄内地域では、平成24年6月に「庄内地域エネルギー戦略推進協議会」を立ち上げました。産学官民が連携しながら地域の特性に応じた新たな事業化や関連する取組みの芽出しに向けた調査や検討、再生可能エネルギーの導入拡大を目指した普及啓発を進めています。



協力農家への材の搬出状況

◆事業の背景

平成27年12月に庄内地域初の木質バイオマス発電所が本格稼働するなど、ここ数年、木材の需要が加速度的に増大してきています。これらの増大する木材の需要に対応するためには、森林組合等の事業体による素材生産を伸ばすための集約化・高効率化を図る事が非常に大切です。その一方で、自伐林家の組織を育成し、自ら伐採・搬出が可能な未利用材の活用を図ることも、地域森林資源の活用に対する県民の参加意識を醸成する上で、有効であると考えられます。

◆事業の概要

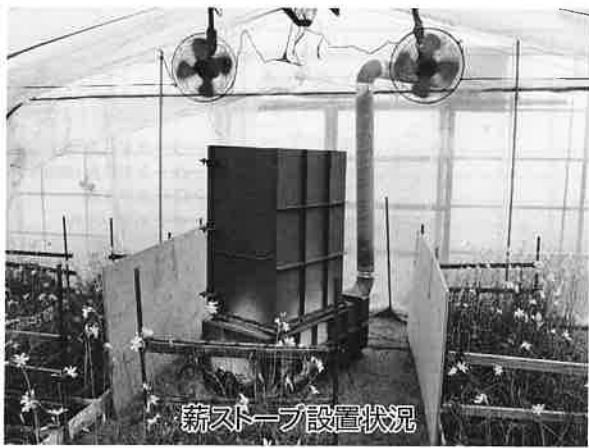
平成27年度から遊佐町をモデルとして、『バイオマス資源熱利用実証事業』を行っております。

これは、森林内に存在する林地残材等の未利用材を自伐林家等が自分の軽トラックで搬出します。その材を町内の協力農家等の農業用ハウスに設置した薪ストーブで燃焼し、エネルギー資源として活用します。その際、地域の工場で開発した丸太のま

ま長時間燃焼させることが可能な薪ストーブをレンタルして設置します。さらに、材を搬出した自伐林家の方々には代金を地域の商店で利用出来る地域振興券で支払います。

このように、「緑の循環システム」に加えて、「地域経済の循環システム」を図るべく、林・工・農・商が連携した実証事業の取組みを行っております。

3年目を迎える今年度は、実証試験の継続実施のほか、これまでの事業成果と課題を検証するとともに、他地域へと拡大すべく、研修会の開催や普及啓発のためのシンポジウムを予定しています。



薪ストーブ設置状況

◆普及への取組み

この取組みを他地域において広げていくためには、まずは各地区の成功事例等を学習し、各地域の実情と課題を把握し解決に向けた検討をしていくことが大切です。その取組みの方向性や森林所有者間のネットワーク化等について話合うべく、今年8月に酒田市平田地区において、第1回目の研修会を開催しました。参加した地元森林所有者からは活発な意見が交わされ、地域特有の課題など、今後の取組みのあり方に向かつて前進が見られました。

◆おわりに

この取組みの普及により、これまで無益な物として林地に放置された林地残材が林業者にとって有価物となり、農家にとっては高騰する化石燃料の使用量を抑えることにより燃料費を軽減できる利点があります。また、地域振興券の活用により、貨幣が地域内で循環する仕組みが生まれることで、地域経済の活性化と森林整備への促進が同時に期待されます。この循環システムこそ、地域における小さな『森林ノミクス』の1つの形と言えるのではないのでしょうか。

〔庄内総合支庁 森林整備課〕

—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味

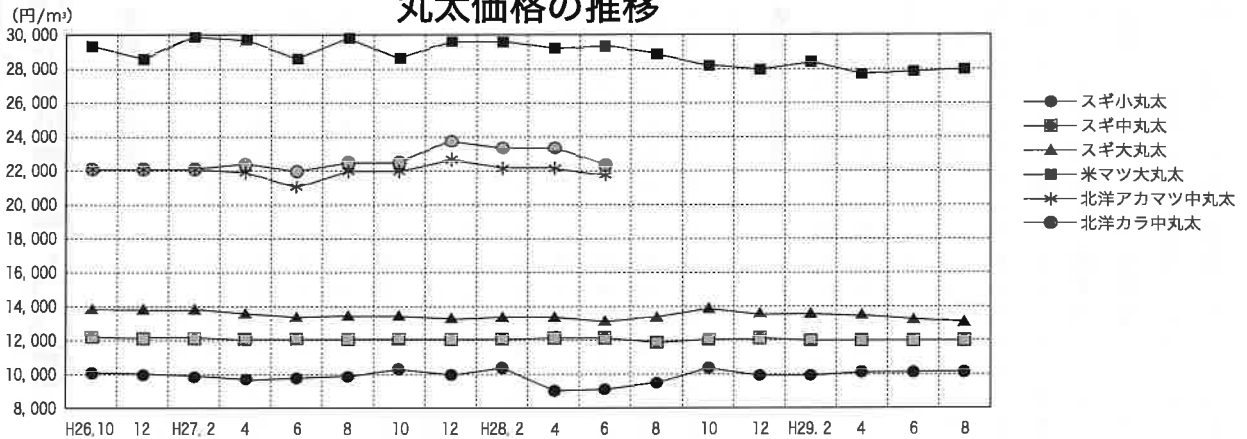
トビマイタケ菌床
まいたけ 樽木

庭先でも栽培
できます。

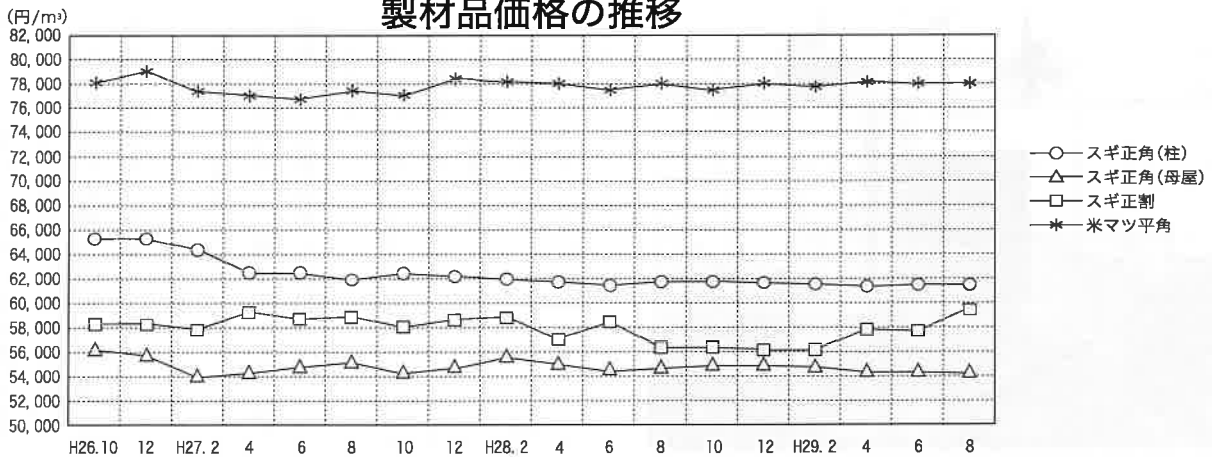


きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他

丸太価格の推移



製材品価格の推移



「実践的リスクアセスメント導入のための集団指導会」を開催します!

今回の指導会ではそれぞれの作業特質に配慮した取り組みやすい簡易版の学習を行います。

リスクアセスメントで
災害ゼロ!!



平成29年11月21日(火)【木材製造業版】 酒田木材工業団地協同組合
(酒田市宮海字明治99-3)

12月 8日(金)【木材製造業版】 株式会社 大和 (会議室)
(鶴岡市友江字川向61-1)

12月15日(金)【林業版】 ホテルメトロポリタン山形
(山形市香澄町一丁目1-1-1)

お問い合わせは・林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部
TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811